

平成29年 埼玉県校友会新年会

平成29年1月29日（日）に埼玉県校友会の学術講演会・新年会が、さいたま新都心のホテル・プリラント武蔵野において、開催された。

◆学術講演会

新年会に先立ち、午後3時より恒例の「学術講演会」が郷田英臣学術部常任理事（68回）司会のもと、講師に住友雅人日本歯科医学会会長（58回）を迎え「歯科会さまざま、さらなる飛躍を求めて」という演題で行われた。講演は住友会長のユニークな語り口で日本歯科医学会の事業の説明、そして歯科医学会会長として2期目を迎えるにあたり組織の継続性の大切さを訴え、まだ道半ばであるとお話しされた。また、最近の高齢者の運転事故を例に出し、実際には高齢者の事故件数は増加していないが、高齢者の事故が増えているような雰囲気をつくり、自動運転を勧めることへの社会的な機運を盛り上げることが行われている。このように歯科会も機運を高める必要があると説明された。

講演会は途中から、小谷田 宏 県校友会会長（61回）との対談方式で進められ、歯科医学会から日本歯科医師会に提案した新病名についてなどが話された。講演が終わり、田中東穂県校友会副会長（61回）より謝辞が述べられた。その後会場を移し、午後5時より「新年会」が開催された。

◆新年会

新年会は、蓮見和久福祉厚生部副部長（76回）の司会のもと、初めに校歌斉唱が行われた。次いで、黒川信良県校友会副会長（63回）の開会の辞に続き、小谷田会長より主催者挨拶が述べられた。

ここでは、最初に平成28年度の叙勲ならびに大臣表彰者の紹介、次に共済制度の確立と財政の健全化、準会員制度の見直しについて説明された。また、創立110周年記念行事の報告があり、その後本



住友雅人
日本歯科医学会会長



小谷田 宏 県校友会会長

学からは堀 憲郎日本歯科医師会会長、住友雅人日本歯科医学会会長、高橋英登日本歯科医師連盟会長、丸山進一郎日本学校歯科医会会長の4人が会長をやられており、4人とともに歯科会を盛り上げていきたいと話され、最後に今年はとり年、とりの中でもフクロウのように知恵を出し合って乗り切っていきたいと締めくくった。

続いて島田 篤 埼玉県歯科医師会会長、近藤勝洪校友会会長、三ッ林裕巳衆議院議員より来賓の祝辞を賜った。その後、谷野日出人先生（58回）の乾杯のご発声にて祝宴は開催された。新年会ということで、毎年恒例の餅つきも行われ、つきたての餅がふるまわれた。参加された先生方は、近況のこと、昔話、様々な話題でしばしの間、世代を超え歓談を続けていた。そして、宴もたけなわではあったが、間中康夫先生（54回）による手締めが行われた。さらに、役員を中心に壇上にあがり、肩を組み心を一つに寮歌が斉唱された。

その後、今年も福祉厚生部員の伴 智光先生（78回）より、力強いエールがきられた。最後に、重竹淳一副会長（68回）の閉会の辞により、平成29年の新年会は名残惜しくも盛況のうちお開きとなった。

（下山賢一郎・77回記）